特67
241

in
OKINAWA
Volkslied

KUDOCHI

mit
Variationen

von
M.SOLOYAMA.

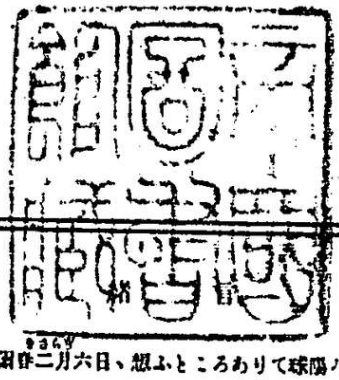
沖縄民謡

くどち

ヴァリエーション

園山民雄作曲

特67
241



[illegible]

今[illegible]春二月六日、想ふところありて球陽の地に遊び、はじめて、南國の淋しき歌謡(リード)を味ふの[illegible]を得ぬ。

椰子樹の森蔭と、芭蕉葉ゆらぐ茅屋のあたりと、そこに土民の口ずさむ、歌謡の如何に寂寞たる悲痛を想起せしむるかを……。

「くどち」も亦、此球陽の民謡なり。

本著素より余れの試みのみ。殊に樂苑の華、日にゃゃ艶はんとする中に、余れの如き才到らざるもの、又何をかなし得んや。要は唯、球陽の音樂を世に問ひ得せて識者の教へを乞はんとのみ。

明治四十四年師走五日

著者識

明治
45. 6. 29

くどち

一　旅の出てたち観音堂
　千手観音伏し拝がで
　黄金酌こてたち別かる。

二　袖にふる露うちはらひ
　大道松原歩みゆく
　弓矢八幡崇元寺。

三　新地高橋うち渡て
　袖をつられて諸人の
　ゆくもかへるも中の橋。

四　沖のそばまで親子兄弟
　つれて別るゝ旅衣
　袖こゝに露涙。

五　船のとも綱とくゝこ
　舟子勇みて眞帆引けば
　風やまこもに午未。

六　またもめぐりあふ御縁こて
　まねく扇は三重城
　ざんば岬も後に見て。

七　伊平屋戸たつ波押しそひて
　道の島々見渡せば
　七島渡中も灘やすく。

八　もゆる烟は硫黄が島
　佐多の岬にはいならで
　「ヤエー」あれに見ゆるは
　御海門富士に見違ふ

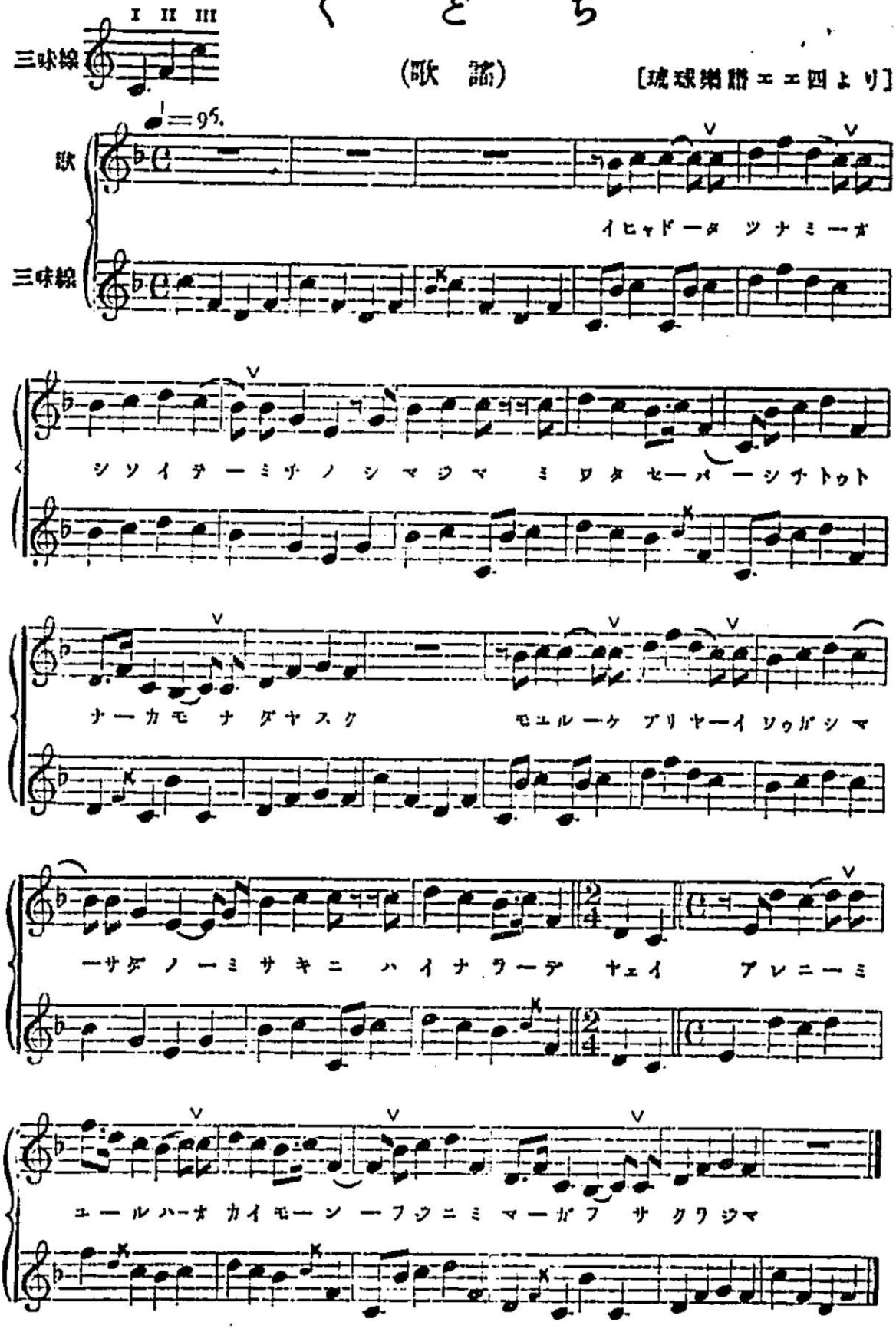
櫻島。

くどちは沖縄より琉球島に有る旅歌なり。歌詞の横に附せる假名は沖縄の發音を特に記せしものなり。

くどち

(歌譜)

[琉球樂譜エエ四より]



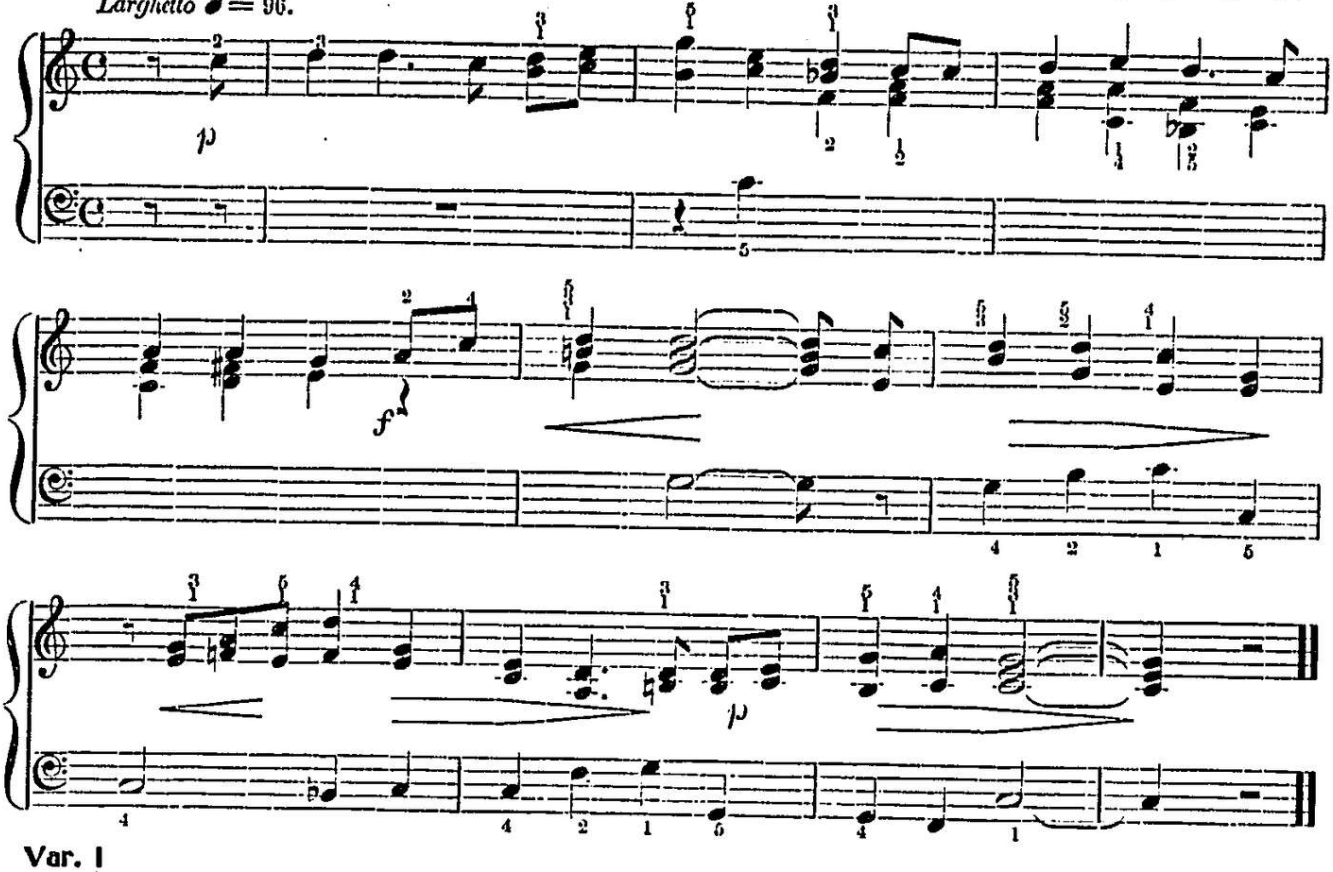
くどち

(ヴァリエーション)

園山民平作曲

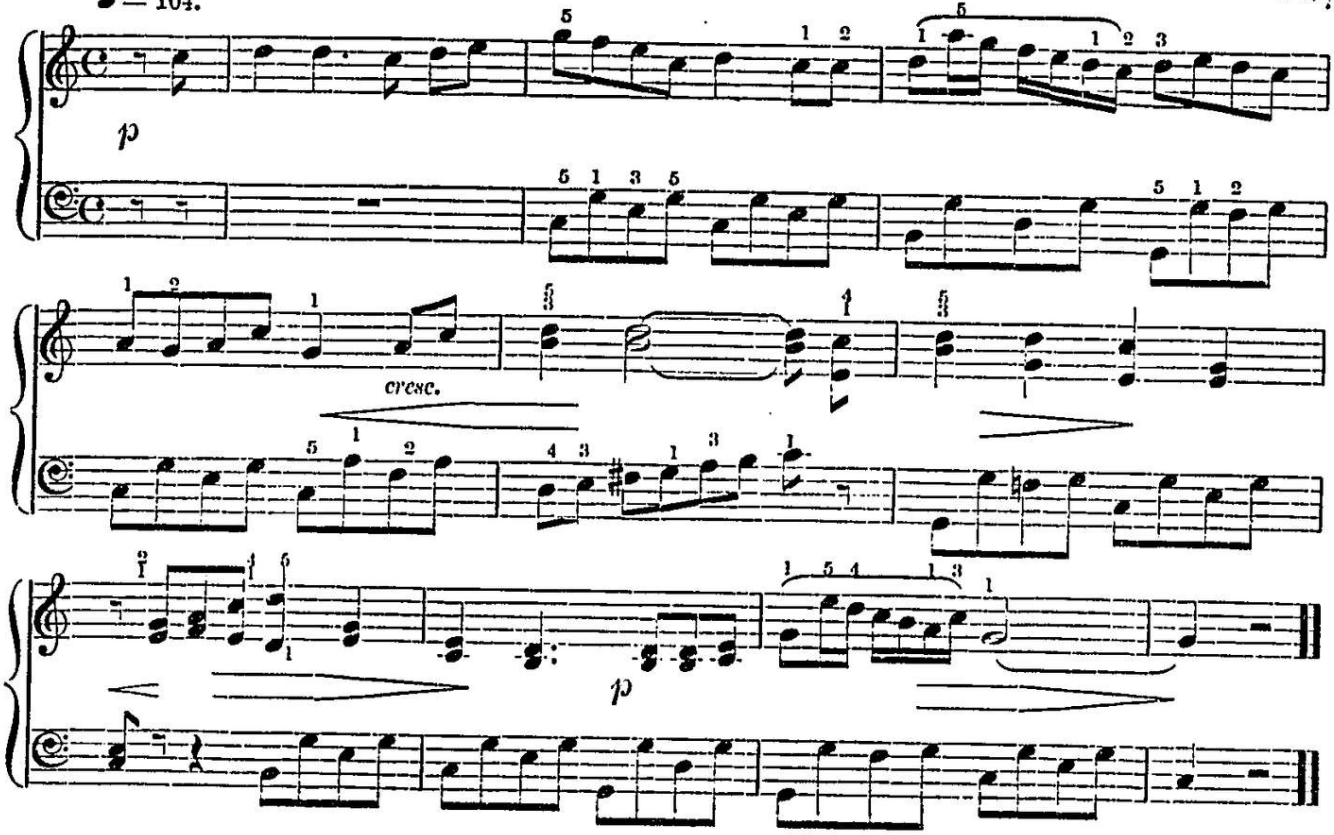
Thema

Larghetto ♩= 96.



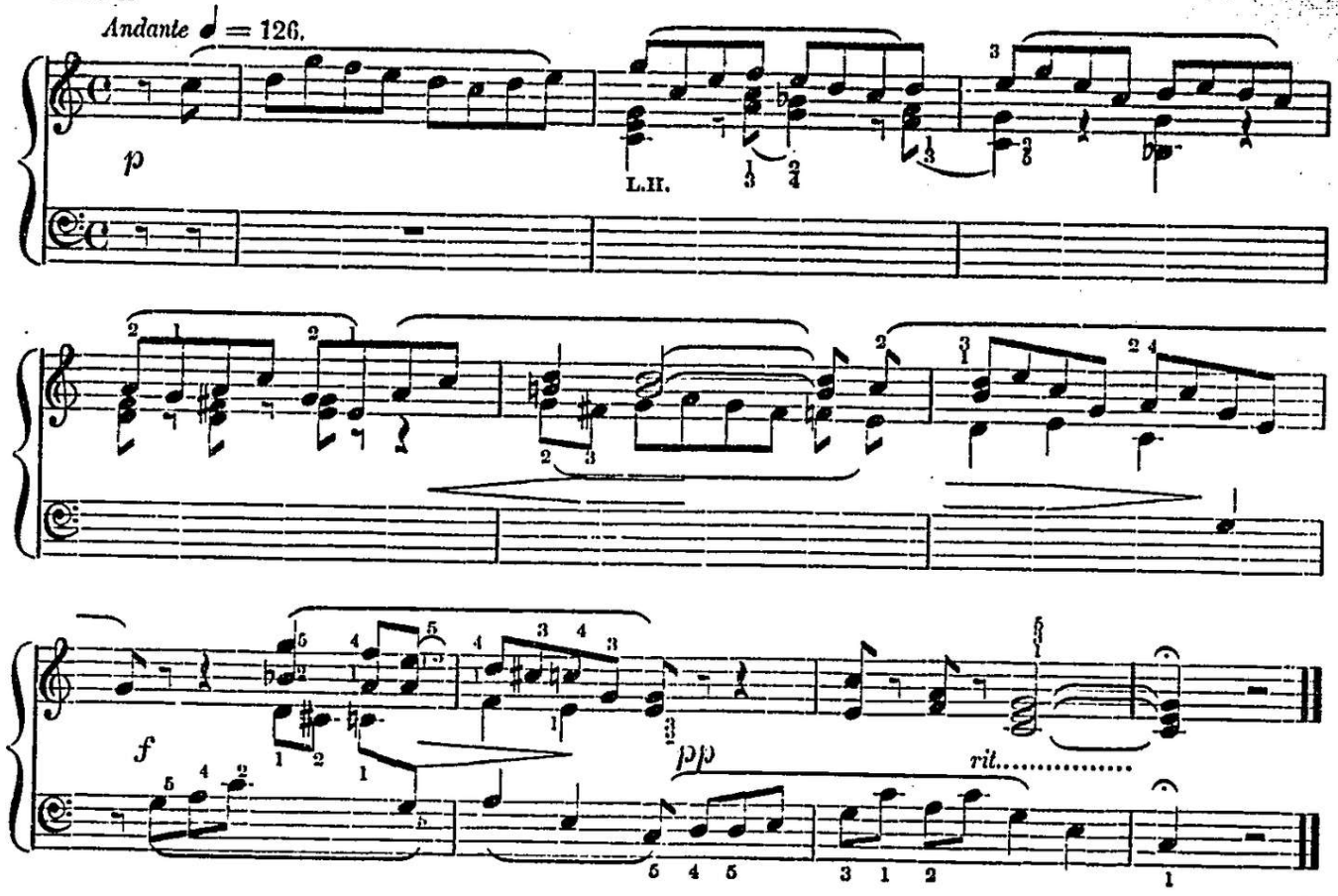
Var. I

♩= 104.



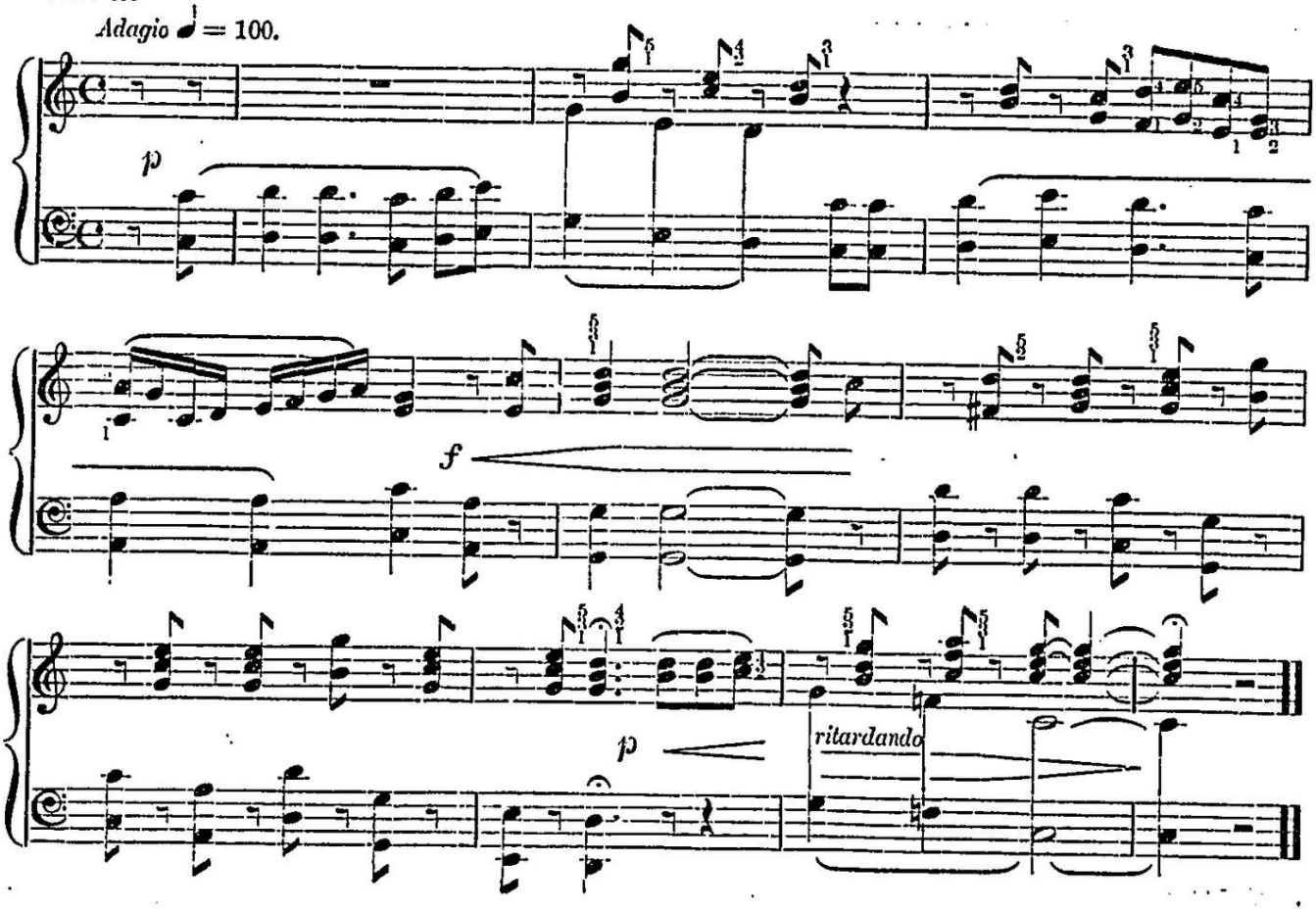
Var. II

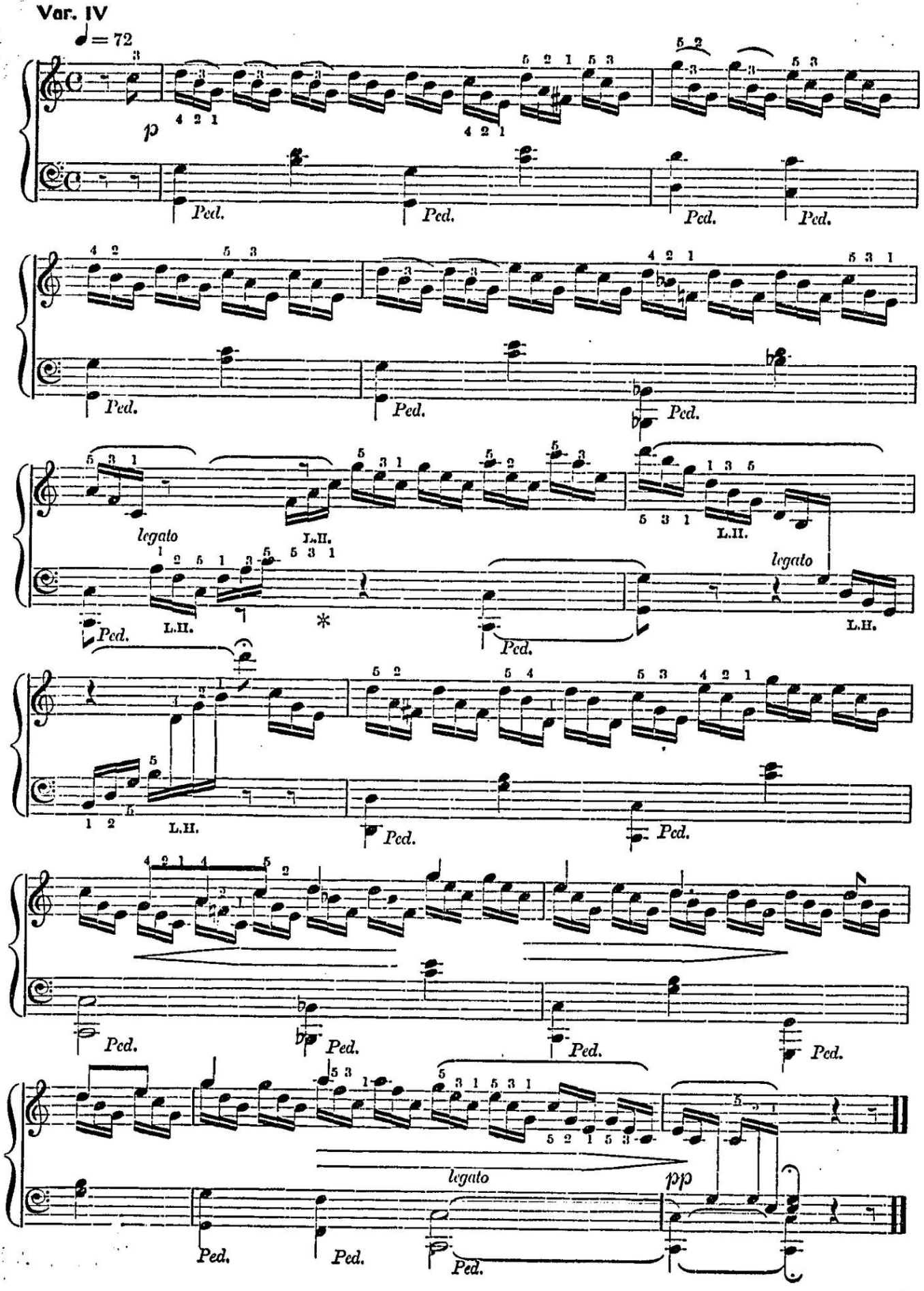
Andante ♩ = 126.

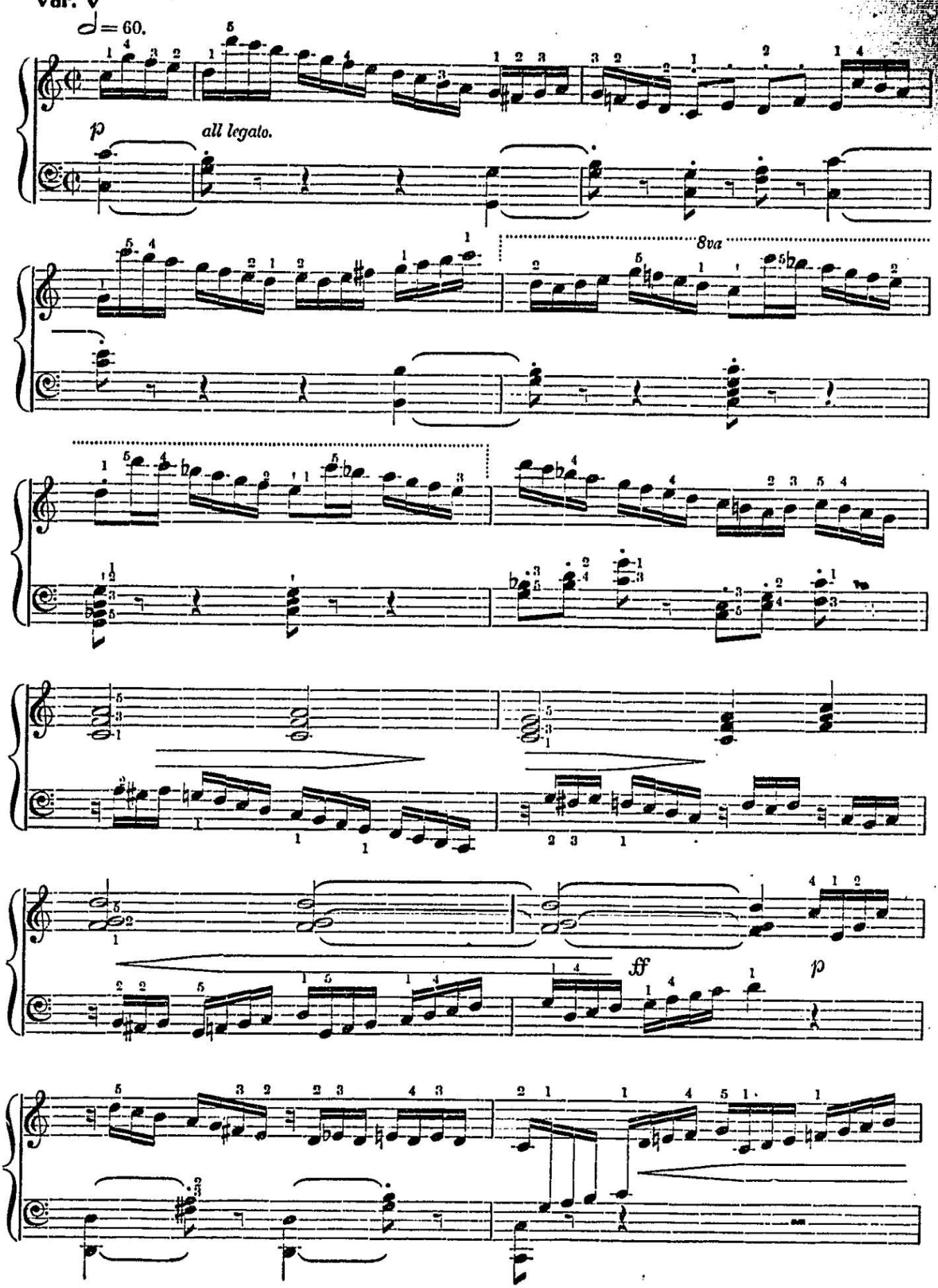


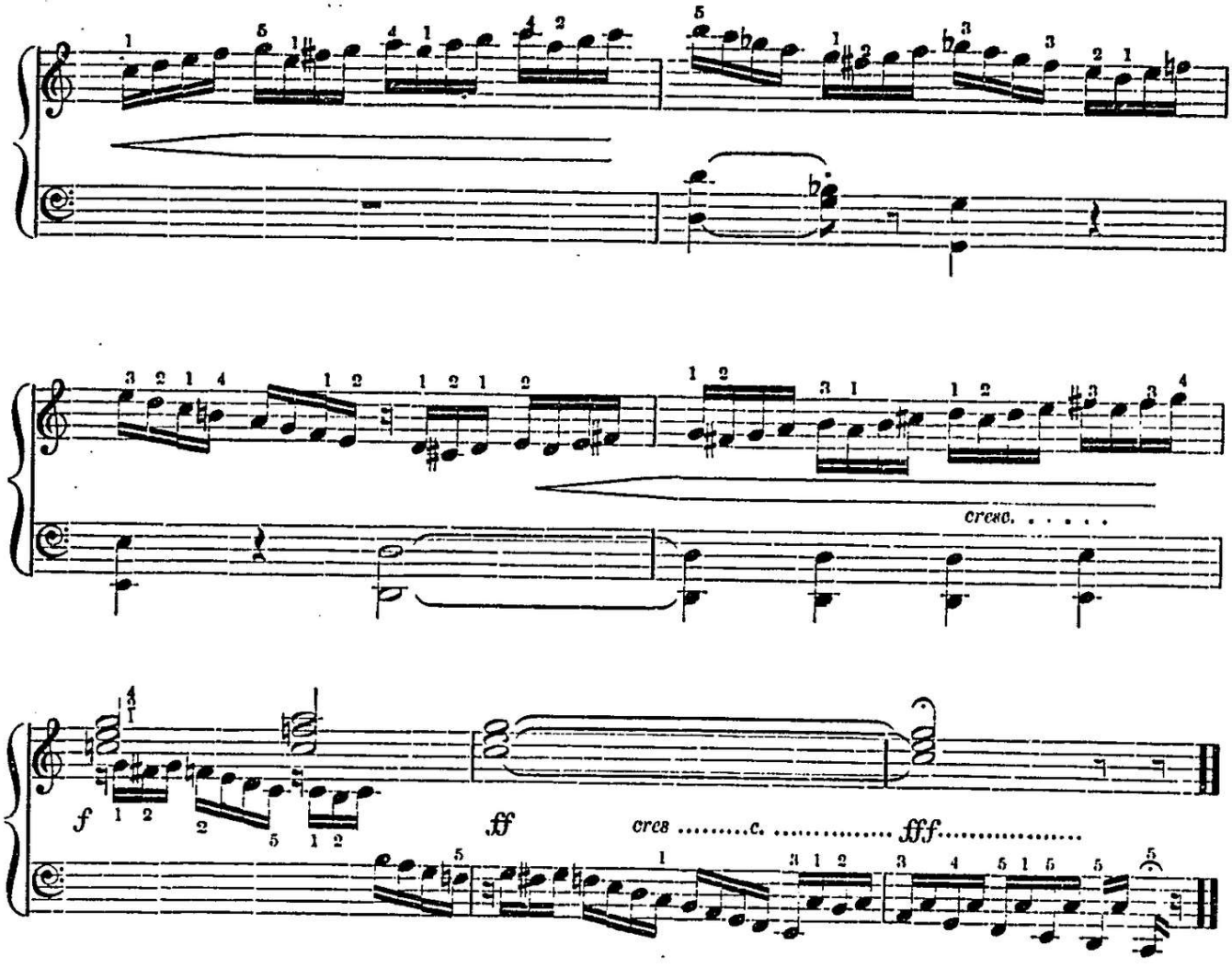
Var. III

Adagio ♩ = 100.

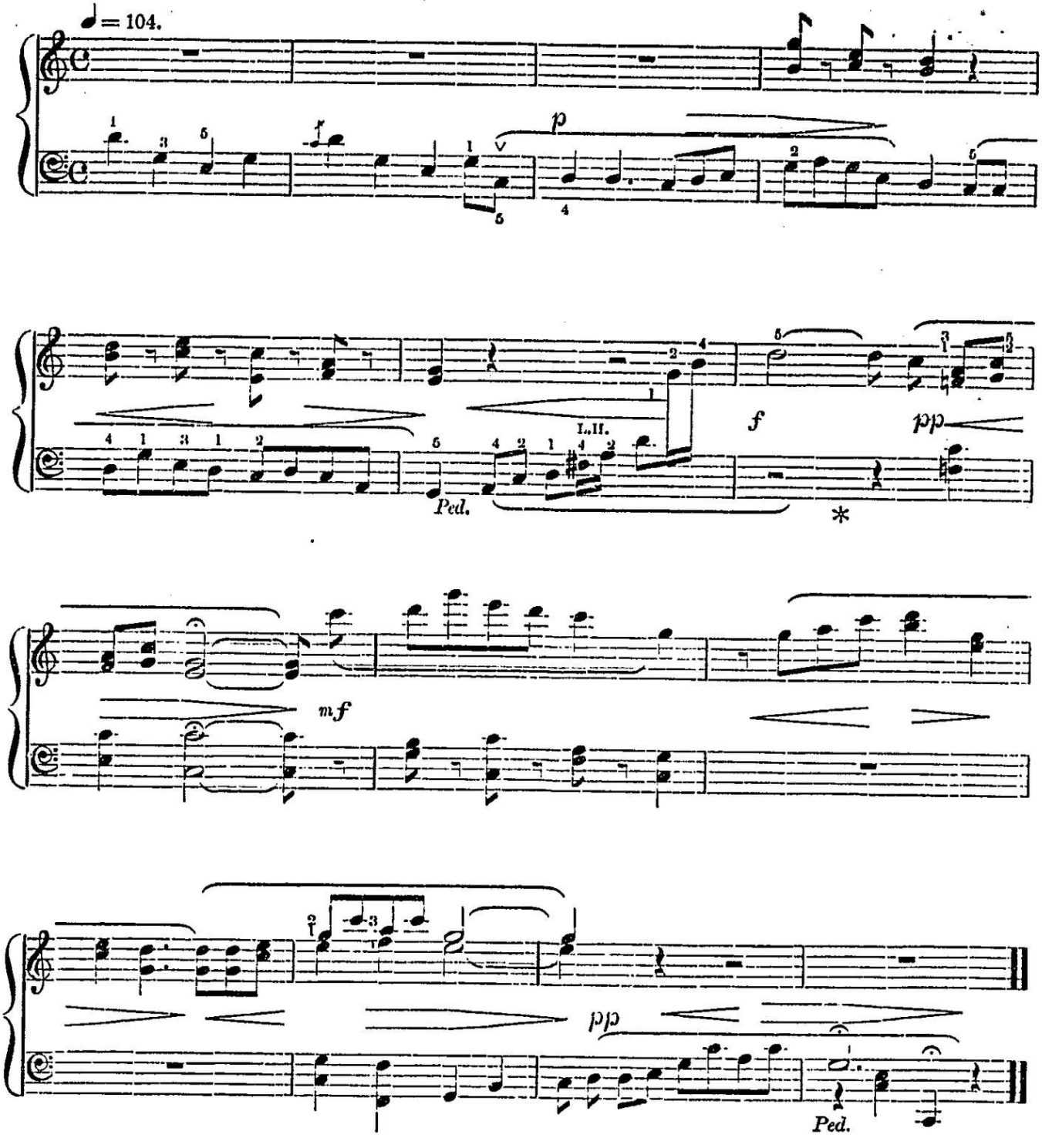



Var. IV
♩ = 72
p
Ped.
legato
L.H.
*
pp

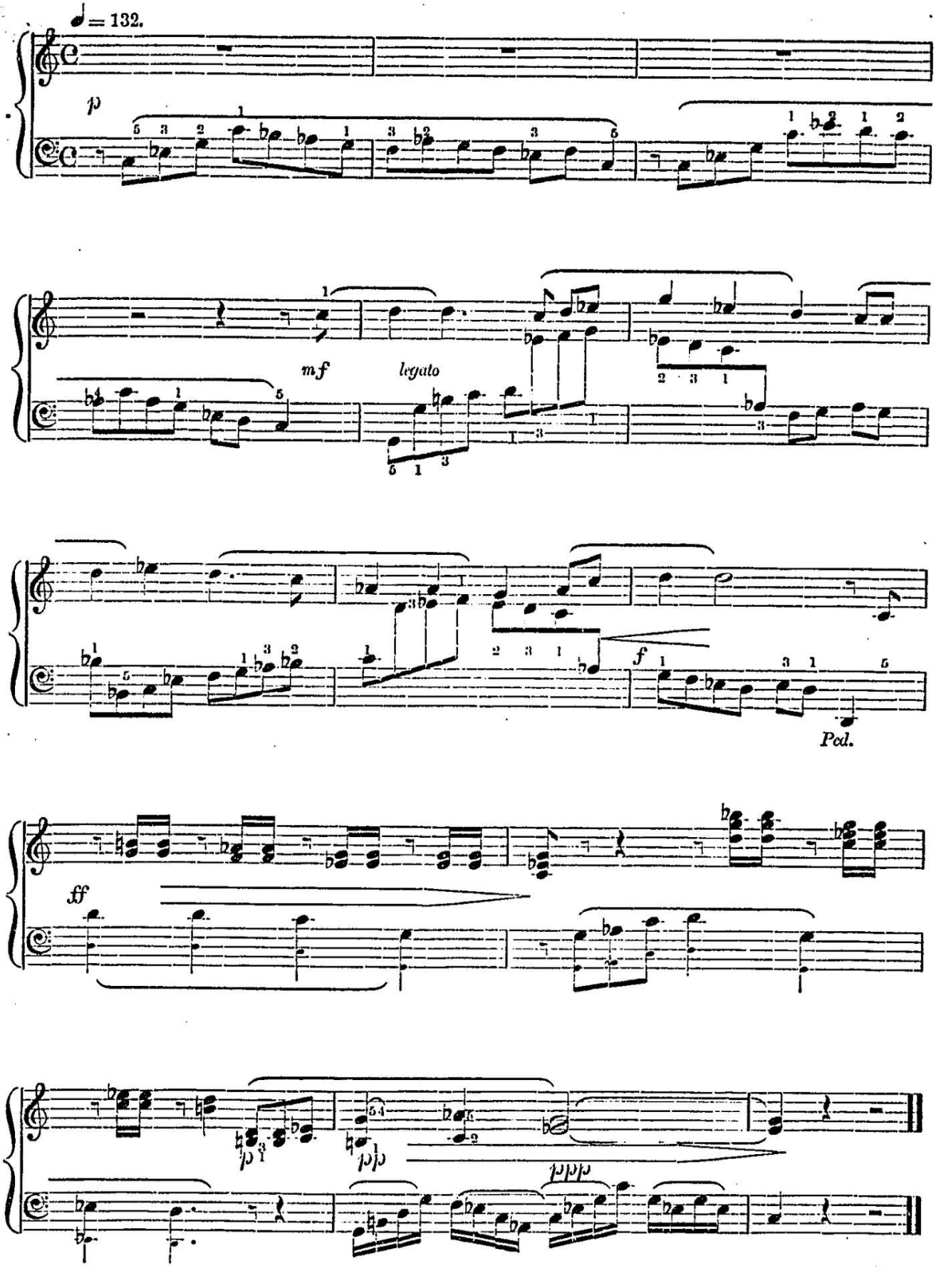

Var. V
♩= 60.
p
all legato.
8va
ff
p


cresc. . . . . .
f
ff
cres .....c. ..... fff.....

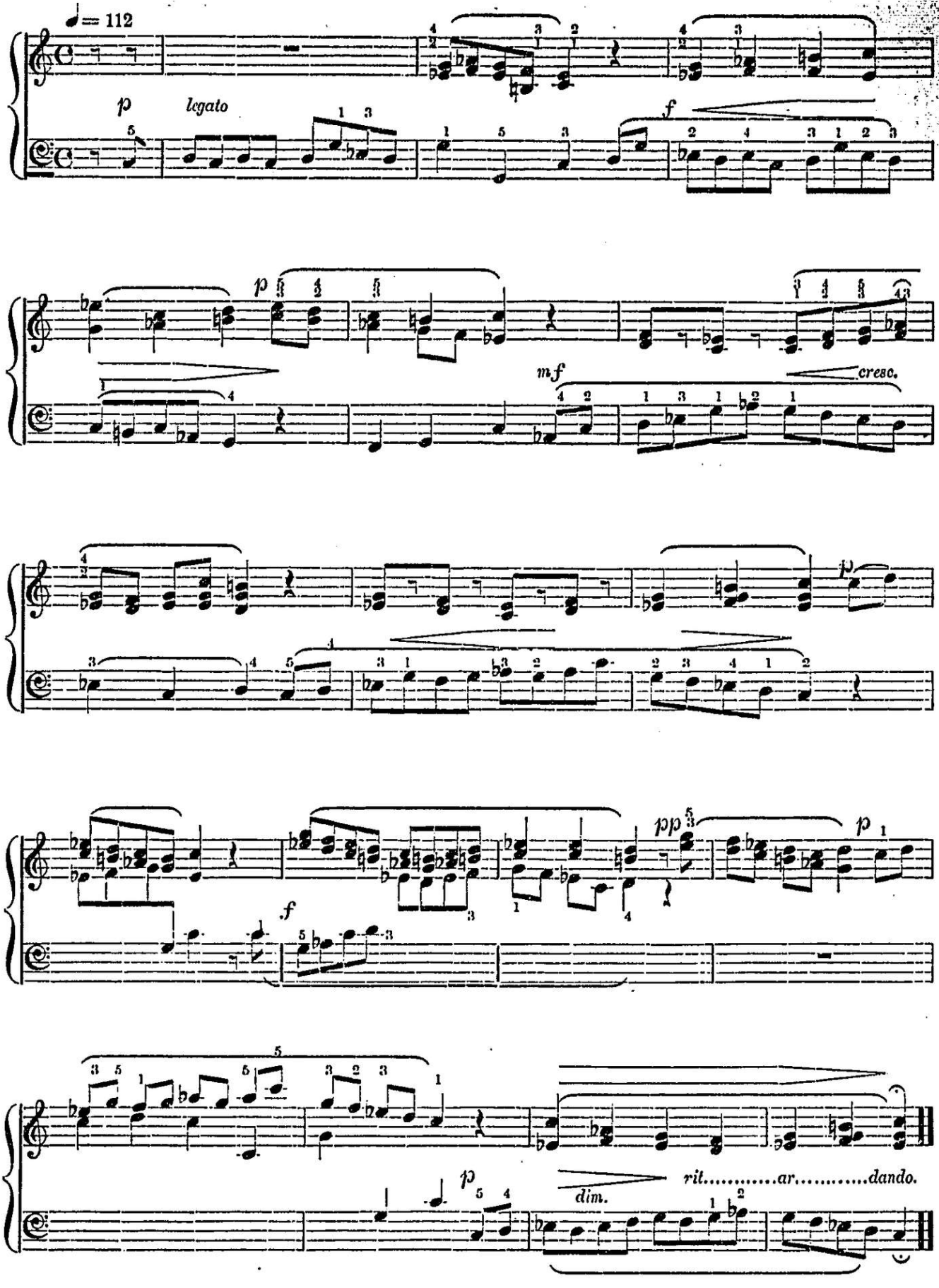
Var. VI



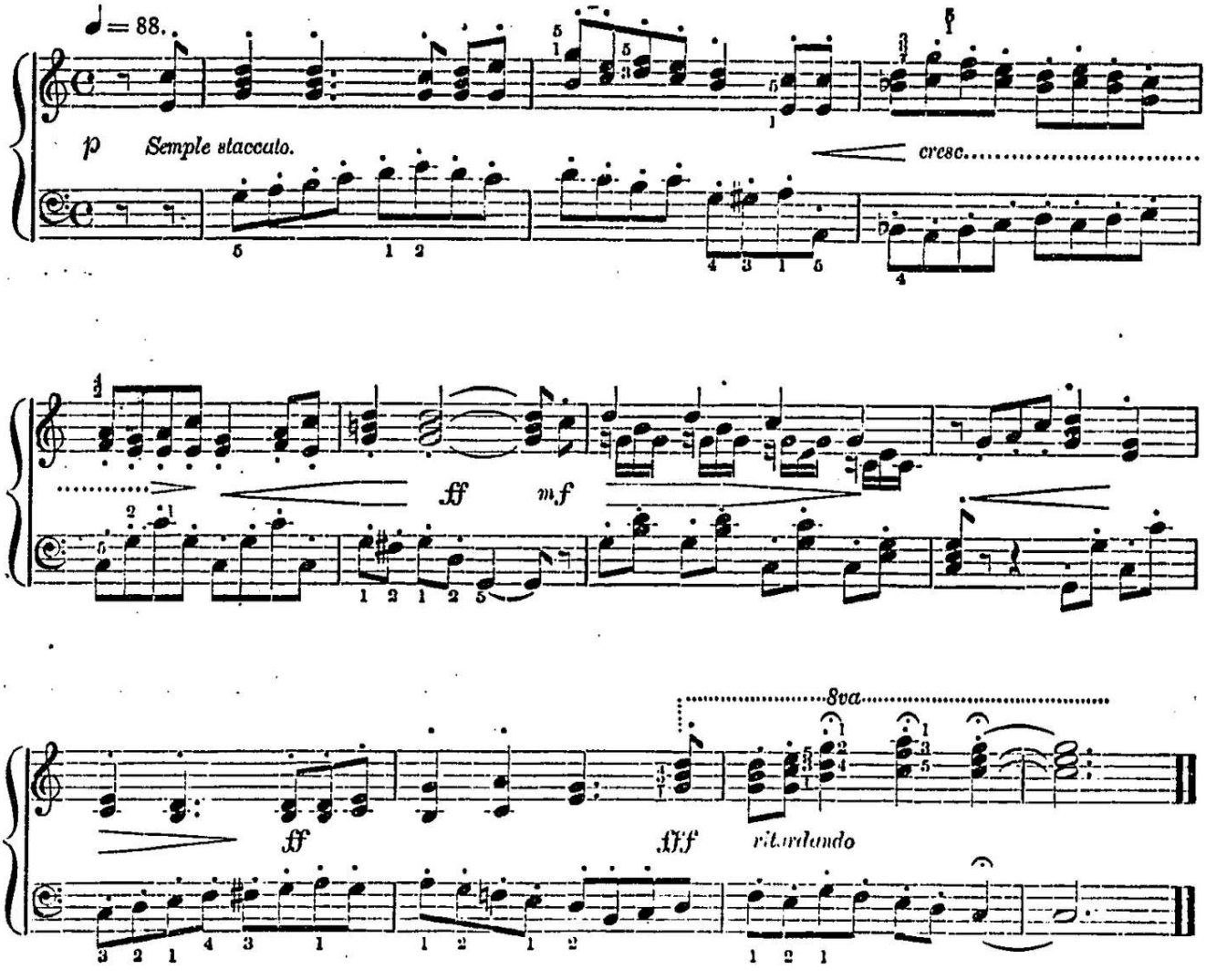
Var. VII



Var. VIII



Var. IX



明治四十五年六月十五日印刷
明治四十五年六月三十日發行

くどち奥付
定價四拾錢

作曲者　園山民平
發行者　小澤朝藏
沖繩縣那覇區久茂地
印刷者　岸山芳太郎
東京市京橋區木挽町二丁目十四番地
印刷所　樂譜活版工場　大道社
東京市京橋區南小田原町一丁目十九番地
發行所　合名會社　大道社
東京市京橋區木挽町二丁目十四番地

不許複製

發賣所　東京市銀座四丁目四番地　松本樂器合資會社
發賣所　沖繩縣那覇區久茂地　小澤朝藏